

白内障  
など

# 負担の少ない 眼科の日帰り手術

従来一定期間必要であった手術入院を、当日あるいは翌日退院できる眼科の「日帰り手術」が注目を集めている。

日帰り手術は、仕事や生活への影響が少なく、気軽に手術治療を受けることができ、費用も従来に比べ安く抑えることができる。また、手術時間が短いことなどから身体への負担も少なく、術後はすぐに自宅での安静治療が可能だ。さらに精神的ストレスも最小限で済むなど、そのメリットは多岐にわたる。

眼科の日帰り手術といえば、白内障が挙げられるだろう。白内障とは、眼の中でレンズの役割をしている水晶体が白く濁り、眼がかすむ、物が二重に見える、ぼやけて見える等の症状を引き起こす疾患。歳を取れば遅かれ早かれ誰もがなると言われ、60歳代で70%、80歳以上ではほぼ100%が白内障になると言われている。加齢に伴い白内障の症状は徐々に進行するが、一度濁った水晶体は元



▲白内障の一例



▲白内障術後

どりの透明なレンズに戻ることはない。そこで、濁った水晶体を手術で取り除き、そこに新しいレンズをはめ込む根本的な治療が必要となる。手術では、特殊な超音波で水晶体を細かく砕いて吸い取ってレンズをはめ込む。手術時間はおよそ10〜20分ほどで、切開幅もわずか2ミリ前後と極小のため、その日のうちに帰ることができる。

しかし症状が進み、水晶体が真っ白になる「成熟白内障」にまで症状が進行してしまうと、水晶体が硬化してしまいうため、器械で水晶体を取り除くことが難しいケースも出てくる恐れがあるので、できるだけ早期の治療が重要となる。

手術後には経過を見るため、1カ月に6回程度の通院が必要となる。また1週間程度の安静が必要なため、遠方から通わなくてはならない人や、ひとり暮らしの

## 日帰り手術のメリット

- **面倒な入院が不要**  
仕事や生活への影響が少なく手術を受けられるほか、手続きや準備等の煩わしさもない。
- **治療費が安い**  
入院費用がかからないことに加え、手術費用も従来より2〜5割程度安くなる。
- **身体への負担が軽い**  
鏡視下手術やレーザー手術等、低侵襲な手術により、早期に社会復帰することができる。

人、手術当日を自宅で過ごすのが不安な人は、入院手術も視野に入れ、入院設備を有する医療機関を選ぶのがいいだろう。

医療技術や医療機器の進歩により、白内障手術以外にも、網膜硝子体手術や、眼瞼下垂に対する外眼筋手術、白内障と硝子体同時手術なども日帰りで可能となってきた。

現在、重要視されている医療テーマのひとつに「短期間での治療」があるが、日帰り手術はその集大成ともいえるだろう。身体的・経済的負担が少なく、また人々の目の健康と快適な生活に繋がることからも、今後も大きな期待が寄せられる。

## 日帰り手術のスケジュール例

- **手術前**
  - ・ 外来での診察、検査
  - ・ 検査結果を踏まえ、日帰り手術の適応があるかを判断
  - ・ 手術法の説明
- **手術当日**
  - ・ 朝から絶飲食
  - ・ 麻酔、手術
  - ・ 施設内での休養
  - ・ 術後検診
  - ・ 帰宅後の注意事項の説明
- **退院後**
  - ・ 自宅療養
  - ・ 問題なければ職場等に復帰



挿入術は、鼻涙管にヌンチャク型シリコンチューブをス TENTトとして挿入し狭窄を緩和す

と、今年冬に療認定施設を申請中で、今年冬に



加藤 祐司院長

(かとう ゆうじ) 札幌北高卒、1993年旭川医科大学医学部卒、99年同大学大学院医学研究科修了。釧路赤十字病院眼科副部長、旭川医科大学眼科講師・医局長などを経て、11年札幌かとう眼科開院。札幌医科大学眼科非常勤講師。日本眼科学会眼科専門医。眼科光線力学的療法(PDT)認定医。医学博士。

札幌かとう眼科

■札幌市東区北31条東16丁目1-22  
☎(011) 780-2111  
http://www.katoganka.jp  
診療時間 月～水、金 9:00～12:00  
15:00～18:00  
土、第2・第4日曜 9:00～14:00  
休診 木曜・日曜(第1・3・5)・祝日

流涙症や高度白内障手術のほか  
最新視力矯正治療「ICL」を実施

加藤祐司院長はかつて大学病院で未熟児網膜症や糖尿病網膜症など難治性の疾患を診療しており、高度な治療に携わっていた。

高度な技術と多くの経験を有していることから、白内障をはじめ、網膜硝子体手術や、道内でも珍しい流涙症(なみだ目)の専門手術のほか、眼瞼下垂などの外眼部に至るまで幅広い眼科疾患に対する日帰り手術を実施している。手術件数も豊富で、昨年7月に開院してからおよそ1年あまりの間に、白内障手術約500例、硝子体手術約60例、涙のう鼻腔吻合術約40例となっている。

また、最新鋭の25ゲージ(0.5mm)網膜硝子体手術装置を道内でもいち早く導入し、硝子体と白内障の同時手術を行っている。無縫合で安全性が高く、手術時間は1時間ほどだ。

白内障手術では、多焦点眼内レンズや高度な技術が必要な乱視矯正用眼内レンズにも対応。また最短期の社会復帰が可能な両目同時の白内障手術も行っており、4割ほどの患者が同療法を受けているという。現在同院は多焦点眼内レンズの先進医療認定施設を申請中で、今年冬に



認可が下りる見通しとなっており、患者の経済的負担の軽減に繋がることとが期待されている。

その他にも硝子体内注射による加齢黄斑変性治療、傷が目立ちにくい炭酸ガスレーザーによる眼瞼手術、網膜疾患や緑内障に対するレーザー治療、後発白内障に対するヤグレーザーなど幅広い疾患に対応している。これらの眼科疾患診療に加え、高度な視力矯正もおこなっており、同院は最新の視力矯正法の「ICL」

(移植型コンタクトレンズ)の認定クリニック。同療法は「コラマー」という素材の形状記憶性レンズを虹彩と水晶体の間に移植し視力を矯正するもので、高度近視の場合も適応となり、手術時間は片目15分程度となっている。

「患者一人一人と丁寧に向き合い、クリニックでも高度な眼科医療を提供していきたい」と加藤院長は力を込める。

混雑緩和のために、先進的な予約システムを今年4月から導入。また患者への説明の際は、ファイリングシステムを活用し、大画面で画像を映しながら、患者や家族への理解を深めてもらえるように努めている。

「患者さんの家と当院間の無料送迎も行なっていますので、高齢の方や交通が不便な方はご相談いただければと思います」(加藤院長)